

# 安全データシート (SDS)

作成・改訂日 2013年9月17日

## 1. 製品及び会社情報

製品名 流動パラフィン「ケンエー」  
 会社名 健栄製薬株式会社  
 住所 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号  
 担当部門 学術情報部  
 電話番号 06(6231)5822  
 FAX 番号 06(6204)0750  
 連絡先 健栄製薬株式会社 学術情報部

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

#### 【物理化学的危険性】

火薬類	: 区分外	自然発火性液体	: 区分外
可燃性・引火性ガス	: 区分外	自然発火性固体	: 区分外
可燃性・引火性エアゾール	: 区分外	自己発熱性化学品	: 区分外
支燃性・酸化性ガス	: 区分外	水反応可燃性化学品	: 区分外
高压ガス	: 区分外	酸化性液体	: 区分外
引火性液体	: 区分外	酸化性固体	: 区分外
可燃性固体	: 区分外	有機過酸化物	: 区分外
自己反応性化学品	: 区分外	金属腐食性物質	: 区分外

#### 【健康に対する有害性】

急性毒性（経口）	: 区分外	皮膚感作性	: 分類できない
急性毒性（経皮）	: 区分外	生殖細胞変異原性	: 分類できない
急性毒性（吸入・ガス）	: 区分外	発がん性	: 分類できない
急性毒性（吸入・蒸気）	: 区分外	生殖毒性	: 分類できない
急性毒性（吸入・粉塵）	: 区分外	特定標的臓器・全身毒性（単回曝露）	: 分類できない
急性毒性（吸入・ミスト）	: 区分外	特定標的臓器・全身毒性（反復曝露）	: 分類できない
皮膚腐食性・刺激性	: 区分外	特定標的臓器・全身毒性（反復曝露）	: 分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	: 区分外	眼刺激性	: 分類できない
呼吸器感作性	: 分類できない	眼刺激性	: 区分外
		呼吸器感作性	: 分類できない
		呼吸器感作性	: 分類できない

#### 【環境に対する有害性】

水生環境急性有害性 : 区分外  
 水生環境慢性有害性 : 分類できない

## GHS ラベル要素

## 【絵表示又はシンボル】

非該当

## 【注意喚起語】

非該当

## 【危険有害性情報】

非該当

## 【注意書き】

## [安全対策]

眼	: 眼に接触すると一時的な刺痛や発赤をおこすことがある。
皮膚	: 皮膚感作を起こすことはないと思われる。
吸入	: 通常の手扱いでは、特に危険性はない。
誤飲	: 大量に飲み込むと不快感、嘔吐、下痢など、胃腸への影響を及ぼすことがある。
その他の情報	: 嘔吐の際に誤嚥性肺炎を来す恐れがある。 微粒のスプレー、ミスト、エアゾールを多量吸入したときに化学肺炎を引起すことがあるが、液体状では室温下で害を及ぼすことはないと思われる。
環境影響	: この種の物質は環境に対して重大な有害性を有しない。
物理的及び 化学的危険性	: 可燃性があるので火源に注意する。漏洩した物質で足元は滑りやすくなることがある。

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分	: 単一成分
化学名又は一般名	: 流動パラフィン
別名	: ホワイトミネラルオイル
化学特性（化学式）	: $C_nH_{2n+2}$
CAS番号	: 8042-47-5
官報公示整理番号	
化審法	: (9) -1692
安衛法	: 既存
添加物	: なし
濃度	: 100%

## 4. 応急措置

吸入した場合	: 医師の診断、治療を受けること。呼吸困難又はチアノーゼが認められた場合には、有資格者により酸素を吸入させる。呼吸停止の場合には人工呼吸を行う。エアゾールスプレーを吸入した場合には、新鮮な空気のある場所に移す。遅発性の症状が起こる可能性があるため、少なくとも48時間は医師の観察下におくこと。
皮膚に付着した場合	: 水と石鹸で付着した部分を洗う。汚染した衣類は脱ぎ、再使用前に洗濯すること。刺激が持続する場合は、医師の診断を受けること。
眼に入った場合	: 清潔な水で十分に目を洗浄する。不快感が持続する場合は、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	: 吐かせないこと。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗うこと。何らかの症状が持続するときは、医師の診断を受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状：飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。  
 眼に入ると炎症を起こす可能性がある。  
 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。  
 ミストを吸入すると気分が悪くなる可能性がある。

最も重要な徴候及び症状：情報なし  
 応急措置をする者の保護：情報なし  
 医師に対する特別な注意事項：情報なし

## 5. 災害時の措置

消火剤：小火災；泡消火器、粉末消火器、二酸化炭素消火器  
 大火災；霧状の強化液を放射する消火器又は汎用タイプの泡消火器。  
 使ってはならない消火剤：消火に棒状の水を用いてはならない。  
 水を用いると油分が浮遊し、火を拡散することになる。  
 特有の危険有害性：情報なし  
 特定の消火方法：消火作業は風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消化方法を用いる。  
 関係者以外は安全な場所に退去させる。  
 消火を行う者の保護：消火作業は保護眼鏡、保護衣、状況によって呼吸保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。  
 ミストが発生する場合、呼吸保護具等を使用してミストを吸入しないこと。  
 環境に対する注意事項：土壌の汚染、水質汚染に繋がるので、可能な限り回収する。  
 回収・中和：大量の場合  
 漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。  
 作業の際には必ず保護具を着用する。  
 漏洩した液は土砂などでその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器に回収する。  
 少量の場合  
 土砂、ウエス等で吸着させて空容器に回収し、その後ウエス等で拭き取る。  
 海上の場合  
 オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マット等で吸い取る。  
 封じ込め及び浄化の方法・機材：こぼれた場合は液の拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は適当な吸収剤を使用して回収する。やむを得ない場合は薬剤を使用する。薬剤を使用する場合には運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。  
 二次災害の防止策：関係箇所に通報し応援を求める。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 【取扱い】

- 技術的対策 : 石油製品から発生した蒸気は空気よりも重いので滞留しやすい。そのため換気及び火気などへの注意が必要である。  
 常温で取り扱うものとし、その際、水分、夾雑物の混入に注意すること。  
 指定数量以上の量を取り扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱い所で行う。  
 皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。  
 ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。  
 容器から取り出すときはポンプなどを使用すること。細管を用いて口で吸い上げてはならない。  
 容器を溶接・加熱・穴あけ又は切断しないこと。爆発を伴って残留物が発火することがある。
- 局所排気・全体換気 : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱い注意事項 : 空容器に圧力をかけないこと。圧力をかけると破裂することがある。  
 飲まないこと。  
 子供の手の届かない所に置く。
- 接触回避 : 『10. 安定性及び反応性』を参照

### 【保管】

- 技術的対策 : 安全な製造管理の一般則に従い取扱い、保管すること。  
 保管場所の床は床面に水が侵入し、または浸透しない構造とすること。  
 保管場所の床は製品が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ適切な溜枘を設けること。  
 保管場所には製品を貯蔵し、または取り扱うために必要な採光、証明及び換気の設備を設ける。  
 保管場所で使用する電気器具等は接地して、静電気対策を行うと共に、熱、スパーク、火災を避ける。  
 容器は必ず密栓すること。
- 保管条件 : 換気の良い、乾燥した場所に保管する。  
 直射日光を避け、熱及び火源を避けて保管する。  
 施錠して保管すること。
- 混触危険物質 : 『10. 安定性及び反応性』を参照
- 容器包装材料 : 別の容器に入れ替えるときは、金属又はガラス容器を使用すること。樹脂容器は種類により溶解することがある。

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : データなし
- 許容濃度  
 日本産業衛生学会 : 3mg/m<sup>3</sup> (鉱油ミスト)  
 (2008年版)  
 ACGIH : 時間荷重平均 TWA 5mg/m<sup>3</sup> (鉱油ミスト)  
 (2009年版)
- 設備対策 : ミスト及び蒸気が発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。  
 取扱い場所近辺に洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
- 保護具  
 呼吸器の保護具 : 通常必要ないが、必要に応じて防毒マスク (有機ガス用) を着用する。  
 手の保護具 : 長時間または繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用する。  
 眼の保護具 : 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具：長時間にわたり取扱う場合又は濡れる場合には耐油性の長袖作業服等を着用する。濡れた衣類は脱ぎ、完全に清浄してから再使用する。

衛生対策：作業中に飲食しないこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など：粘性を有する液体、無色透明

臭い：なし、又は軽度の石油臭

pH：該当しない

融点・凝固点：該当しない

沸点、初留点及び沸騰範囲：> 230°C

引火点：> 250°C (ASTM D92)

爆発範囲：データなし

蒸気圧：0.008hPa 以下 (0.01mmHg 20°C)

蒸気密度 (空気=1)：データなし

比重 (密度)：0.860 - 0.873 (25°C/25°C)

溶解度：水に対して不溶

オクターン/水分配係数：logPOW：> 6 (この商品は油に可溶)

自然発火温度：データなし

分解温度：データなし

蒸発速度 (酢酸ブチル=1)：データなし

動粘度：2.5 - 300mm/s (40°Cにて)

## 10. 安定性及び反応性

安定性：安定

危険有害反応可能性：安定

避けるべき条件：加熱、混触危険物質との接触、火源

混触危険物質：強酸化剤

危険有害な分解生成物：なし

## 11. 有害性情報

急性毒性

経口：区分外；LD50 > 5000mg (類似物質のデータによる)

経皮：区分外；短期曝露では有害作用は考えられない。

吸入：区分外；通常の使用形態においては有害性は考えられないが、ミスト又はスプレーの吸収により有害作用の発生が考えられる。

皮膚腐食性・刺激性：区分外；モルモットの皮膚に適用したが刺激性は認められなかった。長期又は繰返し曝露により皮膚刺激などの症状が生ずる

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：区分外；ウサギの眼に適用したが刺激性は認められなかった。

呼吸器感作性又は皮膚感作性：モルモットにおいて皮膚感作性は認められなかった。

生殖細胞変異原性：データなし

発がん性：データなし

生殖毒性：データなし

特定標的臓器・全身毒性

単回曝露：データなし

反復曝露：データなし

吸引力呼吸器有害性 : データなし

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : 区分外  
 水生環境慢性有害性 : 分類できない  
 残留性・分解性 : 情報なし  
 生体蓄積性 : 情報なし  
 土壌中の移動性 : 情報なし  
 他の有害影響 : 情報なし  
 環境基準 : 情報なし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。  
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合はそこに委託して処理する。  
 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。

汚染容器・包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

海上規制情報 : 非該当  
 航空規制情報 : 非該当  
 国連分類 : 非該当

### 国内規制

陸上規制情報 : 消防法 指定可燃物  
 海上規制情報 : 船舶安全法 非危険物 個別運送及びばら積み運送時  
 航空規制情報 : 航空法 非危険物

特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。  
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく漏れる等、災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、最寄の消防機関その他の関係機関に通報すること。輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損、腐蝕、漏れのないように積込、荷崩れの防止を確実にを行う。  
 重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法 : 通知対象には該当しない  
 化審法 : 非該当  
 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) : 非該当  
 消防法 : 指定可燃物  
 毒物劇物取締法 : 非該当

---

水質汚濁防止法	: 油分排出規制 (5mg/L 許容濃度)
	: ノルマルヘキサン抽出分として検出される
海洋汚染防止法	: 油排出規制 (原則禁止)
下水道法	: 鉱油類排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 産業廃棄物規制 (拡散、排出の禁止)
食品衛生法	: 食品添加物公定書の流動パラフィン使用基準により、パン生地分割及び離形の目的以外に使用してはならない。

---

## 16. その他の情報

参考文献:

- 1) 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 (OELs)
- 2) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices. ACGIH
- 3) Sonneborn Inc.,MSDS

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合は用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供であって保証するものではありません。